

テサロニケ後書序言

本書をしたためた機会および目的　パウロが先の書簡をテサロニケに送ってからしばらくして返事があったが、それによると、信者の現状は前とそう変わったこともなく、迫害がますます増すにもかかわらず信者は依然として勇氣をもつてこれに堪え、真実にキリスト教の徳に進んだが、ただキリスト再臨の時代が示されなかつたので、この問題について紛擾ふんじょうが終わらず、信者の中には、キリスト再臨が近いうちにあることだと思つて、偽予言やパウロの偽書簡をもとにし、あるいは先の書簡を曲解して、これを証する人さえいて、人々は非常に狼狽して業をやめ、乱情にその日その日を送る者が多いと聞いたので、パウロは更に本書をしたためることになった。

題目および区分　本書は先の書簡とほとんど同一の場合、同一の時に書いたものであるため、題目もまた大体同じ。区分は、初めに例の挨拶と感謝と祈祷とを述べた、やや長い冒頭があつて（一章一―十二節）、本文は二編に分けられる。第一編は教理的で、キリストの再臨は、これに先立つ種々の不幸のあとに来るべきものであるから、近々にあるはずのない理由を述べ（二章一―十六節）、第二編は倫理的で若干の緊要な教訓を含んでいる（三章一―十五節）。最後は簡単な末文で終わっている（三章十六―十八章）。

年代および場所　本書をしたためた地方はコリントで、時はおよそ紀元五三年の末か、五四年の初めであるとされている。

使徒聖パウロ・テサロニケ人に

送りしの中の書簡

冒頭



挨拶

1 パウロ、シルヴァノおよびチモテオ、わが父にてますます神および主イエズス
 2 ・キリストにあるテサロニケ人の教会に「書簡を送る」。2 願わくは、わが父にてますます神およ
 び主イエズス・キリストより恩寵と平安とを汝らに賜わらんことを。

感謝

3 兄弟たちよ、われらは絶えず汝らにつきて相当に神に感謝せざるべからず。これ汝ら
 4 の信仰ますます増加して、めんめんの愛情もみな互いに豊かなればなり。4 さればわれら自らも
 汝らをもって、すなわちその忍べるすべての迫害および患難における忍耐と信仰とをもって、神
 5 の諸教会の間に誇りとす。5 この患難は神の正しき審判の印にして、汝らが神の国のために苦し
 6 みてこれに入るに足る者とせられんためなり。6 そは汝らを悩ます人々に悩みをもって報い給う
 7 は、神にとりて正当のことなれば、7 悩める汝らにも、われらとともに安息を賜うこと正当なり。
 8 これ主イエズス、その能力の天使たちを従えて天より現われ給う時のことにして、8 すなわち炎
 のうちにおいて、神を知らざる人々、わが主イエズス・キリストの福音に従わざる人々に報い給
 9 う時にあたりて、9 彼らは主の御顔とその能力の光栄とを離れて、終わらなき滅びの罰を受けん、
 10 その時、主来り給いて、その聖徒によりて光栄を受け給い、信じたるすべての人より誉を得給

うべし、これ、われらの証するところ汝らに信ぜられたればなり。

11 祈禱 11 ゆえに、われら常に汝らのために祈りて、わが神汝らをしてその召しにかなわしめ、
12 かつ及ぶかぎり、すべての善意と信仰の業わざとを全うし給わんことを願ひ奉る。12 これわが神と主
イエズス・キリストとの恩寵によりて、わが主イエズス・キリストのみ名、汝らのうちに光榮を
着せられ、汝らも彼にありて光榮を得んためなり。

第一編 教理上すなわちキリストおよび

世の終わりのこと

1 **第一章 忠告** 1 兄弟たちよ、わが主イエズス・キリストの再臨につき、またわれらがこれと一
2 致すべきことにつきては、あるいは靈2により、2 あるいはわれらより出でしがごとき物語、ある
いは書簡によりて、主の日迫れりとして汝らがたやすく本心より動かされず、また驚かされざらん
ことをこいねがう。

3 **キリストの再臨に先立つべき事項** 3 たれにも決して欺かるることなかれ、けだし、まず棄教きぎょう
4 のこと来りて、罪の人すなわち滅びの子現わるるにあらずば、「主の日は来らじ」。4 彼は反対し
て、いっさいのいわゆる神または礼拝物に激しく立ち逆らい、神殿に坐して自ら神たるがごとく、
5 おのれを示すにすら至るべし。5 わがなお汝らのうちにありし時、これらのことを言いいたりし
を汝らは記憶せざるか。

6 非キリストの出現を留むる者 6 かの時期に至りて現われしめんために、今彼を留むる者の何
 7 たるかは汝らの知るところなり。7 けだし不義の奥義はすでに活動せり、ただし今これを留めつ
 8 つある者の除かるるまでなり。8 その時かの不義者表わされ、主イエズスみ口の息をもつてこれ
 9 を殺し、おのが降臨の光栄をもつてこれを滅ぼし給うべし、9 かの者の来るはサタンの勢力によ
 10 ることにして、いっさいの異能の業と印と偽りの奇跡と、10 不義のまどわしとをつくして滅ぶる
 人々に当たらん。これ彼らが救われるよう真理の愛を受けざりしゆえなり。されば神、そのうち
 11 にまどいを働かしめ給いて彼らは偽りを信ずるに至らん。11 これ真理を信ぜずして不義に同意し
 たる人々のことごとく審判せられんためなり。

12 慰めの言葉 12 されど主に愛せられ奉る兄弟たちよ、われらは常に汝らのために神に感謝し奉
 るべきなり、そは神、「聖」霊によれる成聖と真理の信仰とによりて救霊を得しむべく、もとよ
 13 り汝らを選び給いたればなり。13 われらの福音をもつて汝らをこれに召し給いしも、わが主イエ
 ズス・キリストの光栄を得しめ給わんためなり。

14 堅固ならんことを勧む 14 されば兄弟たちよ、毅然としてわれらのあるいは物語、あるいは書
 15 簡によりて習いし伝えを守れ。15 願わくは、わが主イエズス・キリスト御自ら、ならびにわれら
 16 を愛し給いて、恩寵による永遠の慰めと良き希望とを賜いしわが父にてまします神、16 汝らの心
 を勧めてすべての良き業と言葉とに固うし給わんことを。

① ラテン訳では、をもつて。 ② 聖霊の黙示あるいは予言の意。 ③ ラテン訳では神に。 ④ 聖霊が人を聖化し給う
 ことの意。

第二編 倫理上すなわち種々の実用的教訓

第二章

1 祈らんことを願う 1 そのほか兄弟たちよ、われらのために祈れ、これ神の御言葉の汝
2 らのうちにおけるごとく走り広まり、かつあがめられんため、 2 また妨げとなる悪しき人々より、
われらの救われんためなり。そは、いっさいの人みな信仰あるにあらざればなり。

3 希望するところ 3 しかれども神は眞実にてましますば、汝らを堅固ならしめ、かつ悪より守
4 り給うべし。 4 われらの命ずることを汝ら現に行ない将来も行なうべきは、われらが主によりて
5 希望するところなり。 5 願わくは主、汝らの心を神の愛とキリストの忍耐とに導き給わんことを。
6 いたずらに日を送る人を戒むべし 6 兄弟たちよ、われらはわが主イエズス・キリストのみ名
によりて汝らに命ず、みだりに歩みてわれらより受けし伝えに従わざるすべての兄弟に遠ざかれ。
7 7 いかにしてわれらを学ぶべきかは、もとより汝らの知るところなり、けだしわれらは汝らのう
8 ちにありてみだりに行なわず、 8 また価なくして人のパンを食せず、かえって汝らの一人をもわ
9 ずらわさざらんために昼夜労苦して仕事をなせり。 9 こは権利なかりしがゆえにあらず、おのれ
10 をもつて型とし、汝らをしてわれらにならわしめんためなりき。 10 けだしわれら汝らのうちにあ
りし時、人もし働くことを否まば、また食すべからず、と命じたりき。
11 乱情を謹責す 11 聞くところによれば、汝らのうちにはみだりに歩みて何の業をもなさず、立
12 ちさまよう人あり、 12 われらはかくのごとき人に、静かに働きておのれのパンを食せんことを、
主イエズス・キリストによりて命じかつこいねがう。

14-13 緊急なる勧め 13 兄弟たちよ、善業をなしてうむことなかれ。14 もしわれらが、この書簡の言葉に従わざる人あらば、これを認めて自ら恥じしめんために、これと交わることなかれ。15 されどこれを敵のごとくにせず、兄弟としていさめよ。

結

末

16 祈禱 16 願わくは、平和の神いずにおいても汝らに不朽ふきゆうの平和を賜い、主、汝ら一同とともにましまさんことを。

17 挨拶 17 われパウロ手ずから書しよして汝らによろしくと言う、すべての書簡においてこれを印章とすれば、わが書きしるすことかくのごとし。

18 祝禱しゆくとう 18 願わくは、わが主イエズス・キリストの恩寵*、汝ら一同とともにあらんことを、アメン。

① ラテン訳では、において。